



車座 2019

捨てられるおもちゃを何とかしたい！ 想いがニーズと繋がる

デンソー在職中からボランティアや社会貢献活動に関わっていた石川さん。「おもちゃ病院」を始めるきっかけは、刈谷市議時代に地域を訪問し、**ごみの集積所で新品同様のまま捨てられたおもちゃや、保育園で壊れたまま修理できず放置されたおもちゃ**を目にして、何とかしたいと感じたことでした。その思いが、20年ほどのち、デンソー弼栄寿会（OB会）の中でおもちゃ修理のボランティアチームを立ち上げることに繋がりました。

2007年に開院、たった10ヶ月で刈谷市からNPO法人の認可を得ることができ、刈谷市の交通児童遊園に拠点を構えました。現在はメーカーの現役社員・OBを含め28人がメンバーとして活動しています。

「おもちゃ修理」は地域でどれくらいニーズがあるのでしょうか？

初年度は、年間400件程度の修理を見込んで始めた活動でしたが、活動は口コミで広がり、2年目には500件、2011年からは**毎年1,000件を超え、累計11,000件以上**のおもちゃが修理に持ち込まれています。主催する親子工作教室でも**年間3,000人以上**の子供たちを受け入れ、時には小学校の授業の一環として、授業内でモノづくりを伝授することもあるといいます。

石川さんの地域課題に対する思いは、見事に地域のニーズと結びついていました。

技術者のスキルで「医療ミス」のない活動を目指す

刈谷おもちゃ病院の「治療」のモットーは「**医療ミス**」を起こさないこと。

おもちゃを修理するボランティアの「ドクター」たちは、外部の講師を招いた勉強会や、講師同士得意分野の知識交換を行っています。

近年、プラスチック製品やIC・マイコンを使ったおもちゃの修理も増えてきましたが、そこは元メーカー社員のドクターの腕の見せ所。**自分たちで3Dプリンタやオシロスコープ、レーザー加工機などの機材も購入し、時には部品を手作りするなどして修理しています。**その高い技術力が評判を呼び、遠くは青森県からも依頼が来たことがあるそうです。

55歳から60歳も、60歳から70歳もあつという間、だからこそ。

財政の弱みや後進の育成など、まだまだ課題の多いNPO法人の活動。もちろん、ドクターたちもボランティアで、報酬はありません。

それでも楽しく続けたいのは、**保護者や子供たちの笑顔、「ありがとう」の一言が原動力**になっているから。そしてそれが、シニアになっても心身が元気でいられる秘訣だと、御年79歳の石川さんは言います。

55歳から60歳、60歳から70歳もあつという間。仕事だけでなく、**第二の人生計画**として、ボランティアや社会貢献も考えてみてほしい、というメッセージで締めくくられました。

明るく、楽しく、元気よく
慌てず、急がず、無理をせず

上の言葉は、刈谷おもちゃ病院のモットー。石川さんは、シニアとして地域参画する際に、いい人間関係を築いていいチームワークで活動する秘訣は、**現役の時の役職や立場にこだわらず、楽しんで参加すること**だとお話くださいました。石川さんの前向きなメッセージに、車座参加者からも新しい気づきや発見を得たことと思います。

セカンドライフで地域参画を考えてみたい方は、一度刈谷おもちゃ病院を訪れてみてはいかがでしょうか？

【刈谷おもちゃ病院HP】

<http://kariya-omocha.jp/>

【車座のアーカイブ動画】

Facebookにて、講演の様様を全編公開中

<https://www.facebook.com/DensoHeartfulMatsuri/videos/2074791229491758/>